

事業 1		特定健康診査事業
事業の目的	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、メタボリックシンドロームや高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病を早期発見し、早期対策に結びつける。	
事業の概要	対象者を抽出、5月末に受診券を送付する。受診期間は6月～11月に6か月間とする。未受診者に対して予備期間を設け、再勧奨通知を送付し受診を促す。結果の説明は受診した医療機関にて実施。	
対象者	40歳～74歳の被保険者	

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトカム指標	1	40歳～74歳のHbA1c6.5%以上の方の割合	特定健診受診者でHbA1cの検査結果がある方のうち、HbA1c6.5%以上の方の割合（特定健診事業実績）	男性：12.8% 女性：5.2%	目標値	男性：13.4% 女性：6.4%	男性：13.3% 女性：6.3%	男性：13.2% 女性：6.2%	男性：13.1% 女性：6.1%	男性：13.0% 女性：6.0%	男性：12.9% 女性：5.9%
					実績値	男性：12.8% 女性：5.9%					
	2	1日飲酒量男性2合以上女性1合以上の方の割合	質問票調査の状況（男女別・年齢調整）（KDB）	男性：26.9% 女性：28.8%	目標値	男性：27.0% 女性：28.0%	男性：26.5% 女性：27.5%	男性：26.0% 女性：27.0%	男性：25.5% 女性：26.5%	男性：25.0% 女性：26.0%	男性：24.5% 女性：25.5%
					実績値	男性：30.9% 女性：33.4%					
	3	週3回以上朝食を抜く方の割合	質問票調査の状況（男女別・年齢調整）（KDB）	男性：20.2% 女性：13.4%	目標値	男性：18.5% 女性：13.0%	男性：18.0% 女性：12.5%	男性：17.5% 女性：12.0%	男性：17.0% 女性：11.5%	男性：16.5% 女性：11.0%	男性：16.0% 女性：10.5%
					実績値	男性：20.9% 女性：13.5%					

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトプット指標	1	健診受診率	特定健診受診者/特定健診対象者（法定報告）	37.0%	目標値	37.0%	38.0%	39.0%	40.0%	41.0%	42.0%
					実績値	37.0%					
	2	40～50歳代の継続受診率	40～50歳代の前年度健診受診者のうち、当該年度継続受診した方の割合（特定健診事業実績）	68.6%	目標値	64.0%	65.0%	66.0%	67.0%	68.0%	69.0%
					実績値	67.0%					
	3	継続受診率	前年度健診受診者のうち、当該年度継続受診した方の割合（特定健診事業実績）	79.3%	目標値	77.0%	77.0%	78.0%	78.0%	79.0%	79.0%
					実績値	77.8%					

特定健康診査事業	
令和6年度評価	
成功要因 （良かったこと）	<ul style="list-style-type: none"> 40歳～74歳のHbA1c6.5%以上の方の割合は、前年度比ほぼ横ばいである。糖尿病重症化予防事業の効果ができていると推測される。 継続受診率については、11月中旬時点での未受診者全員への受診勧奨ハガキや、まだら受診者への受診勧奨電話により、計画策定時（R4年度）に比べ上昇したと考えられる。受診勧奨回数や内容の工夫を引き続き検討していく。
阻害要因 （上手くいかなかったこと）	<ul style="list-style-type: none"> 受診期間を誕生日別に3回に分けていたものを、すべての対象者が同一期間に受診できるようにして、実質の受診期間を2か月延長した。計画策定時（R4年度）より受診率は上昇しているが、R5年度受診率と比べると横ばいであった。（7月、8月の受診者数が少ないため、猛暑の影響が考えられる） 第四期の質問票で、飲酒量についての選択肢が細分化された（3合以上→3～5合、5合以上）になったため、例年より量の多い選択肢を選択する者が多かったことが予想されるが、都との比較では変わらず有意に飲酒量が多い結果となっているため、引き続き情報発信を行い経過を確認する。 朝食摂取の重要性について、年度前半に啓発することができず、値は悪化している。12月、2月の健康イベントでポスター掲示を行った。引き続き様々な場面での情報発信を行う。

事業 2	特定保健指導事業
事業の目的	メタボリックシンドロームに着目した特定保健指導を被保険者に対して実施することで、被保険者の生活習慣病予防、健康の保持増進及び医療費の伸びを抑制することを目的とする。
事業の概要	健診結果からメタボリックシンドロームのリスクを判定し、生活習慣の改善に役立つ特定保健指導を保健師・管理栄養士等が実施する。
対象者	区の特定健康診査を受診した方のうち、生活習慣病のリスクに応じて階層化し、メタボリックシンドロームの該当者（積極的支援）及び予備群（動機付け支援）と判断された方

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトカム指標	1	特定保健指導対象者出現率	特定保健指導対象者数/特定健診受診者数（法定報告）	11.9%	目標値	11.0%	11.0%	10.5%	10.5%	10.0%	9.5%
					実績値	11.6%					
	2	腹囲2cm・体重2kg減を達成した方の割合	腹囲2cm・体重2kg減達成者数/特定保健指導修了者数	16.4%	目標値	21.0%	22.0%	23.0%	24.0%	25.0%	26.0%
					実績値	22.2%					
	3	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	前年度特定保健指導利用者のうち、当該年度に特定保健指導の対象ではなくなった方の割合（法定報告）	21.4%	目標値	27.0%	28.0%	28.0%	29.0%	29.0%	30.0%
					実績値	21.9%					

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトプット指標	1	特定保健指導実施率	評価修了者数÷特定保健指導対象者数×100（法定報告）	19.0%	目標値	25.0%	26.5%	28.0%	29.5%	31.0%	32.5%
					実績値	22.5%					

特定保健指導事業	
令和6年度評価	
成功要因 (良かったこと)	<p><アウトカム評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度から積極的支援にアウトカム評価を用いた180Pコースが導入されたため、「腹囲2cm・体重2kg減」を目標とし達成した方の割合も増加した。（180Pコース 4人中3人（75%）達成、その他コース 77人中24人（31%）達成） また、指導者側もアウトカム評価を念頭に置いた指導ができたと考えられる。委託事業者による、アウトカムに効果的な行動計画の設定や支援方法の分析を指導に活かす。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度よりも委託事業者との連絡を密にとり、実施率や再動奨励状況などの管理を行った。
阻害要因 (上手くいかなかったこと)	<p><特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率></p> <p>令和5年度からインセンティブに体組成計測定を導入し、評価時の測定も案内するなど、支援期間終了後も運動・食事を意識した生活が維持できるよう事業内容の工夫をしているが、令和5年度の21.4%より微増に留まった。</p> <p><特定保健指導実施率></p> <p>令和5年度より実施率は上昇したものの、当日保健指導実施率が年々低下していること等が影響し、目標には達成せず。令和7年度は医療機関での当日保健指導実施率を改善するための工夫を実施している。</p>

事業 3

糖尿病予防のための保健指導

事業の目的		特定健康診査（以下「特定健診」という。）の結果、糖尿病予備群と判定された方に対して保健指導を実施することで、糖尿病の発症を予防し、健康の保持増進及び医療費の伸びの抑制に資することを目的とする。	
事業の概要		特定健診受診者のうち特定保健指導に該当しない糖尿病予備群の方に「糖尿病食事・運動セミナー」および「個別指導」を実施する。セミナーに参加したことのある方は、個別指導のみの提供とする。	
対象者	選定方法	国保特定健診の結果、糖尿病予備群であった方（特定保健指導対象者を除く）	
	選定基準	健診結果による判定基準	問診票で血糖薬未使用と回答した方で、HbA1c値（NGSP値）が6.0～6.4%の者
		レセプトによる判定基準	
		その他の判定基準	40歳～74歳
	除外基準	特定健診の質問票にて人工透析を受けていると回答した方は除く	
重点対象者の基準			

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトカム指標	1	糖尿病予防保健指導対象者出現率	糖尿病予防保健指導対象者数/特定健診受診者数 (特定健診事業実績)	13.3%	目標値	13.0%	13.0%	12.0%	12.0%	11.0%	11.0%
					実績値	12.7%					
	2	糖尿病予防保健指導実施者の1年間のHbA1c値改善・維持率	糖尿病予防保健指導実施者のうち、翌年度も特定健診受診した方。 特定健診結果にて（翌年度HbA1c-今年度HbA1c）が0以下の人数/保健指導実施者数 (特定健診事業実績)	76.4%	目標値	83.7%	83.9%	84.1%	84.3%	84.5%	84.7%
					実績値	-					

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトプット指標	1	糖尿病予防保健指導実施率	糖尿病予防保健指導実施者数/糖尿病予防保健指導対象者数	21.7%	目標値	18.5%	19.0%	19.5%	20.0%	20.5%	21.0%
					実績値	22.1%					

糖尿病予防のための保健指導

令和6年度評価

成功要因 (良かったこと)	<p><アウトカム評価> 糖尿病予防保健指導対象者の出現率は年度目標を達成しており、さらに特定健診結果より40歳～74歳のHbA1c6.5%以上の方の割合が計画策定時より低下していることから、各種糖尿病予防事業の効果が現れていると考える。</p>
	<p><アウトプット評価> これまで事業に参加したことのない「初回」対象者に対して再勧奨通知の発送を徹底することで、保健指導実施率が向上したと考える。</p>
阻害要因 (上手くいかなかったこと)	<p><アウトカム評価> 糖尿病予防保健指導実施者の1年間のHbA1c値改善・維持率は目標を下回ったが、2017年度から5年間のHbA1c値改善・維持率の増減幅の推移から考えると、直近3年間は数値として安定してきていると考える。 また、以前に当事業の対象となり、当年度も継続的に対象となった者が全体の3割程度である。対象から外れることができるよう、保健指導内容を充実させ、実施者が継続的に生活習慣改善に取り組めるよう支援していきたい。</p>

事業 4

糖尿病ハイリスク未受診者の医療機関受診勧奨

事業の目的		糖尿病が発症が強く疑われるにもかかわらず、治療を受けていない方を早い段階から適切な医療に繋ぎ、糖尿病の重症化を予防する。	
事業の概要		特定健診の結果、糖尿病の可能性が強く疑われるにもかかわらず、糖尿病薬未使用であり、高血糖状態を放置していると思われる方に、医療機関受診状況調査票を送付し、未受診者へは保健師・管理栄養士が電話にて受診勧奨を行う。	
対象者	選定方法	国保特定健診の結果、糖尿病の疑いがある方	
	選定基準	健診結果による判定基準	特定健診問診票で血糖薬未使用と回答したHbA1c値（NGSP値）が6.5%以上の方
		レセプトによる判定基準	服薬状況や受診状況の確認
		その他の判定基準	40歳～74歳
	除外基準	人工透析患者と、KDBにて糖尿病薬の使用が確認できた方は除外	
重点対象者の基準	HbA1c値が7.0%以上の方		

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトカム指標	1	糖尿病受診勧奨対象者出現率	糖尿病受診勧奨対象者数 / 特定健診受診者数 (特定健診事業実績)	3.0%	目標値	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%
					実績値	3.3%					
	2	受診勧奨対象者のうち、医療機関を受診した方の割合	特定健診後の医療機関受診者数 / 糖尿病受診勧奨対象者数	89.0%	目標値	87.0%	87.5%	88.0%	88.5%	89.0%	90.0%
					実績値	87.8%					
	3	受診勧奨対象者の1年間でHbA1c値改善・維持率	糖尿病受診勧奨対象者のうち、翌年度も特定健診受診した方。特定健診結果にて (翌年度HbA1c-今年度HbA1c) が0以下の人数 / 糖尿病受診勧奨対象者数 (特定健診事業実績)	61.6%	目標値	77.4%	77.9%	78.4%	78.9%	79.4%	80.0%
					実績値	-					

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトプット指標	1	糖尿病受診勧奨反応率	調査票の返信または電話にて本人の応答があった数 / 糖尿病受診勧奨対象者数	92.5%	目標値	92.3%	92.5%	92.7%	92.9%	93.0%	93.0%
					実績値	90.5%					

糖尿病ハイリスク未受診者の医療機関受診勧奨

令和6年度評価

成功要因 (良かったこと)	<p><アウトカム指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診結果より40歳～74歳のHbA1c6.5%以上の方の割合が低下していることから、各種糖尿病予防事業の効果が現れていると考える。 ・受診勧奨実施率（調査票の返信があった者と、本人へ電話で勧奨できた者の合計 / 受診勧奨対象者）が9割を超えている。熟練の受診勧奨員による質の高い電話勧奨および調査票送付により、医療機関受診の行動変容を促すことができた。 <p><アウトプット指標></p> <p>調査票の返信がなかった者等に対する再勧奨通知の発送、受診勧奨員による細やかな電話勧奨の成果と考える。</p>
阻害要因 (上手くいかなかったこと)	<p>人員体制の変更により、いままでと同じ受診勧奨の対応が難しかった。</p>

事業 5 糖尿病性腎症重症化予防事業

事業の目的	早期介入により糖尿病性腎症の重症化を防ぐことで、被保険者の糖尿病性腎症による透析等の合併症の発症を予防し、医療費の伸びの抑制に資することを目的とする。		
事業の概要	特定健診結果より、糖尿病性腎症が疑われる方についてアルブミン尿検査を行い、尿アルブミン値及びeGFR値より糖尿病性腎症重症化予防保健指導の対象となった方に対して医師の指示に基づき栄養指導等を実施する。		
対象者	選定方法	①アルブミン尿検査対象者：特定健診で、糖尿病治療中かつ尿たんぱく（-）かつeGFR45～59の方または糖尿病薬服用かつ尿たんぱく（±）（+）かつeGFR60以上の方 ②保健指導対象者：アルブミン尿検査の結果、早期腎症期と判定された方	
	選定基準	健診結果による判定基準	
		レセプトによる判定基準	
		その他の判定基準	
	除外基準		
重点対象者の基準			

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5) 実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトカム指標	1	保健指導実施者の1年間でのHbA1c値改善・維持率	保健指導実施者のうち、翌年度も特定健診受診した方。特定健診結果にて（翌年度HbA1c-今年度HbA1c）が0以下の人数/保健指導実施者数（特定健診事業実績）	50.0%	目標値	62.3%	62.4%	62.5%	62.6%	62.7%	62.8%
					実績値	-					
	2	保健指導実施者の1年間でのeGFR値改善・維持率	保健指導実施者のうち、翌年度も特定健診受診した方。特定健診結果にて（翌年度eGFR-今年度eGFR）が0以上の人数/保健指導実施者数（特定健診事業実績）	50.0%	目標値	46.0%	46.2%	46.4%	46.6%	46.8%	47.0%
					実績値	-					
	3	糖尿病患者の透析者数	国保加入者で、KDBシステムから人工透析患者一覧を抽出し経年で比較する	100人	目標値	100人	99人	98人	97人	96人	95人
					実績値	99人					
	4	糖尿病患者の新規透析導入者数	国保加入者で、KDBシステムから人工透析患者一覧を抽出し経年で比較する	20人	目標値	20人	20人	20人	19人	19人	19人
					実績値	19人					

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5) 実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトプット指標	1	アルブミン尿検査実施率	アルブミン尿検査実施者数/事業対象者数	54.3%	目標値	51.5%	52.0%	52.5%	53.0%	53.5%	54.0%
					実績値	49.2%					
	2	糖尿病性腎症重症化予防事業保健指導実施率	保健指導実施者数/保健指導対象者数	41.3%	目標値	49.5%	49.6%	49.7%	49.8%	49.9%	50.0%
					実績値	40.6%					

糖尿病性腎症重症化予防事業	
令和6年度評価	
成功要因 (良かったこと)	<p><アウトカム指標> 透析者数に関する項目は目標を達成しており、各種糖尿病予防事業の効果と考える。</p>
阻害要因 (上手くいかなかったこと)	<p><アウトプット指標> アルブミン検査実施率および保健指導実施率は目標値を下回っている。健診実施医療機関で、検査実施を促していただくよう、また保健指導指示書作成件数が増加するよう、医師会への更なる協力依頼を行う必要がある。</p>

事業 6	ジェネリック医薬品の使用率向上
------	-----------------

事業の目的	ジェネリック医薬品に対する意識啓発及び使用率向上
事業の概要	ジェネリック医薬品を利用した場合の患者負担額差額情報を作成し、被保険者に通知する。差額金額を通知することでジェネリック医薬品に関心を持ってもらい、より一層の普及を目指す。また、医療機関窓口提示用の「ジェネリック医薬品希望カード」や保険証に貼る「ジェネリック医薬品希望シール」を窓口配布し、被保険者への普及活動に努める。
対象者	全被保険者 ただし、ジェネリック医薬品の差額情報通知対象者については、被保険者のうち生活習慣病・慢性疾患を中心とした薬剤の投与を受けており、一部負担金の軽減が見込まれる方

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトカム指標	1	ジェネリック医薬品使用率	使用率（数量ベース）/4月調剤月時点	76.4%	目標値	80% ↗（*）	80.5% ↗（*）	81% ↗（*）	81.5% ↗（*）	82% ↗（*）	82.5% ↗（*）
					実績値	77.8%					

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトプット指標	1	ジェネリック医薬品差額通知の配布回数		2回	目標値	2回	2回	2回	2回	2回	2回
					実績値	2回					

ジェネリック医薬品の使用率向上	
令和6年度評価	
成功要因 （良かったこと）	イベントの健康展においてジェネリックシールやパンフレットを設置して周知した。また、令和6年10月から選定療養費の対象となった。
阻害要因 （上手くいかなかったこと）	ジェネリック医薬品の供給不足がまだ解消されていない。また、一定程度、ジェネリック医薬品の使用に対する抵抗感を持つ区民がいることが想定される。

事業 7		高齢者の服薬情報提供事業	
事業の目的	高齢者の健康増進と医療費の適正化		
事業の概要	多剤服用者を対象に、服薬情報を提供することで薬局への個別相談や残薬整理を促す。		
対象者	服薬医薬品が6種類以上、14日以上長期服薬、2医療機関以上受診している70歳～74歳の方		

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトカム指標	1	改善者の割合	9月～12月診療分で、医薬品種類数が改善した割合	30.0%	目標値	↗	↗	↗	↗	↗	↗
					実績値	29.5%					

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトプット指標	1	通知者数	1月～4月診療分で対象条件に合致した人数	824人	目標値	↘	↘	↘	↘	↘	↘
					実績値	920人					

高齢者の服薬情報提供事業	
令和6年度評価	
成功要因 (良かったこと)	対象者に送付する郵送物について、封筒や通知文のデザインを刷新し、区民が今まで以上に理解しやすく、利用しやすい内容に改善した。
阻害要因 (上手くいかなかったこと)	多剤や重複服薬に関する区民の認知や知識が不十分なところがある。そのため、全体の通知者数が減少していないと想定される。

事業 8 (住民) 歯周病検診事業

事業の目的	咀嚼機能良好者の割合を増やす
事業の概要	咀嚼機能の低下は、顎の筋力の低下や歯周病の悪化などの要因となる他、糖質偏重食や食速度が速くなることでメタボリック症候群や肥満、糖尿病にもつながる。その様な症状を防ぐためには20歳代、30歳代からの歯科検診の受診習慣を持つことが重要であることから歯周病検診の年齢拡大を図る。
対象者	豊島区在住の20歳～75歳（5歳刻み）

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトカム指標	1	特定健診受診者のうち、かみにくい・ほとんどかめない方の割合	質問票調査の状況（男女別・年齢調整）（KDB）	男性：23.9% 女性：24.3%	目標値	男性：24.5% 女性：25.0%	男性：24.0% 女性：24.5%	男性：23.5% 女性：24.0%	男性：23.0% 女性：23.5%	男性：22.5% 女性：23.0%	男性：22.0% 女性：22.5%
					実績値	男性：23.4% 女性：23.8%					

	No.	評価指標	評価対象・方法	2023年度 (R5)実績		年度					
						2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)
アウトプット指標	1	歯周病検診受診率	年度ごとの受診率を比較	8.19%	目標値	8.25%	8.40%	8.55%	8.70%	8.85%	9.00%
					実績値	6.85%					

(住民) 歯周病検診事業	
令和6年度評価	
成功要因 (良かったこと)	<p><アウトカム指標> 男女ともに目標値を達成した。また、R6年度特定健診受診者のうち歯周病検診対象者を抽出し、歯周病検診受診者・未受診者で「かみにくい・ほとんどかめない」と回答した者を比較したところ、受診者は全体の16.6%、未受診者は23.6%であった。このことから、歯周病検診を受けているの方が、咀嚼良好と感じる者が多いとわかる。よって歯科検診を受けることは、咀嚼良好と感じる者が増えることが考えられる。</p> <p><アウトプット指標> 令和6年度より、歯周病検診対象者に25歳と35歳が追加され、若年層の歯科検診を受診する機会が増えた。</p>
阻害要因 (上手くいかなかったこと)	<p><アウトプット指標> R6年度歯周病検診受診率が前年度より1.34%も減少した。年齢別受診率を比較すると25歳、40～55歳の受診率が特に低かった。青年期は自身の健康状態について関心が薄くなりがちである。この時期の生活習慣が将来の生活習慣病の罹患につながるため、行動変容を促す情報発信等の啓発活動を今後も実施していく。また、就労世代は平日の歯科受診が難しいため、受診チケットに同封している実施医療機関一覧に土日祝日も受診できる歯科医院を記載する。</p>